

4

自然や生き物に関する取組

身近な自然や生き物とふれあうことは、自然の大切さを理解する上で非常に重要です。しかし都市化に伴う開発により、池沼、湿地、草地、雑木林などの自然や野鳥、昆虫、魚などの生き物とふれあうことができる身近な空間は減少しています。また、元々その地域で生息している生き物（在来生物）に地域の外から来た生き物（外来生物）が様々な影響を与えることで、在来生物が絶滅してしまうなどの問題も起きています。

福井の在来生物

○福井市の在来生物の例

	種名	生息環境
爬虫類	 【スッポン】	（福井県カテゴリー：要注目） 県内の河川の流れの緩やかな中・下流域の砂泥質底や池沼に生息しています。河川の護岸工事、河川堤内地の公園化による自然堤防河川が減ったことで生息環境が悪化し、生息数は減少しています。
両生類	 【シュレーゲルアオガエル】	県内全域に分布しており、主に田んぼや森林に多く生息しています。繁殖期になると水田や湖沼に集まってきます。近年の開発による田んぼの減少などの影響を受けて生息数は減少傾向にあります。
	 【トノサマガエル】	田んぼや池、丘陵地、山麓帯等に多く生息しています。縄張り意識が非常に強く、共食いをすることもあります。近年の開発による田んぼの減少などの影響を受けて生息数は減少傾向にあります。
淡水魚類	 【メダカ】	（福井県カテゴリー：県域絶滅危惧Ⅱ類） メダカは流れの穏やかな小川や水路に生息していますが、河川や水路の改修などによる生息環境の破壊や、農薬などによる水質の悪化により急激に減少しています。
昆虫類	 【タガメ】	（福井県カテゴリー：県域絶滅危惧Ⅰ類） タガメは池や沼、緩やかな流れの小川、水田などに生息していますが、圃場整備や河川改修、農薬などによる水質の悪化などにより生息環境が悪化し、絶滅の危機に瀕しています。
植物	 【フジバカマ】	（福井県カテゴリー：県域絶滅危惧Ⅱ類） フジバカマは秋の七草の一つです。湿った場所を生息地としていますが、河川改修工事による環境の変化により、その生息数は減少しています。

出典 環境省、松橋利光「山溪ハンディ図鑑10、日本のカメ・トカゲ・ヘビ」、前田憲男「(改訂版)日本カエル図鑑」、森文俊「手に取るようにわかるメダカの飼い方」、阿達直樹「見たこともないミラクルワールド」、永田芳男「レッドデータプランツ」

外来生物について知ろう

○外来生物による影響

外来生物が自然生態系に与える影響には以下のようなものがあります。

- ・在来生物を捕食する
- ・在来生物のえさや生息場所を奪う
- ・近縁の在来生物と交雑し雑種をつくる

○外来生物に関する注意点

- ・野生に生息している生き物を別の場所に移動させたり持ち帰ったりしないようにしましょう。
- ・外来植物を見つけたら、除草などの駆除活動に積極的に参加しましょう。
- ・ペットとして生き物を飼育する場合は、最後まで責任を持って育てましょう。

○福井にいる外来生物

・特定外来生物

外来生物（海外起源の外来種）の中でも、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすものは、特定外来生物に指定されています。福井にもアライグマなど特定外来生物が見られ、在来生物の生息を脅かすなどの問題が生じています。

・要注意外来生物

要注意外来生物とは、特定外来生物とは異なり、外来生物法により規制されている生物ではありません。しかし、生態系に悪影響を及ぼす可能性があるため、駆除に取り組みましょう。

		種名	生息環境
特定外来生物	哺乳類	 <p>【アライグマ】</p>	<p>原産地：北アメリカ</p> <p>顔の黒い帯と尻尾のしま模様が特徴。夜行性で、森林や湿地から市街地まで幅広く生息できます。動物園からの逃亡やペットの遺棄などにより各地で野生化し、農作物や家屋へ侵入する等の被害が報告されています。</p>
	魚類	 <p>【オオクチバス】</p>	<p>原産地：北アメリカ東部</p> <p>肉食性の淡水魚で、小魚、エビやカニなどの甲殻類、昆虫や鳥のヒナまで捕食することが確認されています。釣り人などの放流により全国に生息域を拡大し、野生化したと考えられます。</p>
	植物	 <p>【オオハンゴンソウ】</p>	<p>原産地：北アメリカ</p> <p>道ばた、河川敷、線路際、海岸などに生育する多年草で、高さは50cm～3m程度、開花期は7～10月です。主に鑑賞用として輸入され、野生化し、全国に分布しています。また、他の在来種の生息域を脅かす繁殖力を持ちます。</p>
要注意外来生物	甲殻類	 <p>【アメリカザリガニ】</p>	<p>原産地：北アメリカ</p> <p>雑食性の水生生物で、藻や水草、小魚、オタマジャクシ、水生昆虫など何でも捕食します。主に養殖用のえさとして輸入したものが逃げ出し、野生化したものと考えられています。</p>
	植物	 <p>【セイタカアワダチソウ】</p>	<p>原産地：北アメリカ</p> <p>主に河川敷などに生育する大型の多年草で、開花期は8～11月です。観賞用として持ち込まれ、今では全国各地で野生化しており、ススキなどの在来植物の生息域を脅かしています。</p>

出典 環境省、(財)自然環境研究センター「日本の外来生物」